

令和8年2月13日

## お 知 ら せ

課名	脱炭素社会推進課
担当	大坪・竹本
内線	3052・3046
直通	086-226-7298

### 岡山県地球温暖化対策実行計画の進捗状況を取りまとめました

岡山県地球温暖化対策実行計画の進捗状況について、令和5(2023)年度の県内の温室効果ガス排出量(速報値)を取りまとめましたので、お知らせします。

#### 1 計画の概要

(1) 期間 平成23(2011)年度～令和12(2030)年度

(2) 県内の温室効果ガス排出量の削減目標

令和12(2030)年度に平成25(2013)年度比で39.3%削減

#### 2 県内の温室効果ガス排出量の状況

(1) 総括

区分 (万t-CO <sub>2</sub> )	基準年度 H25年度 (2013)	<速報値> R5年度 (2023)	基準年度比 増減率	R4年度 (2022)	基準年度比 増減率
				(2022)	
温室効果ガス 排出量	5,217	4,034	△22.7%	4,195	△19.6%
吸收量		△100		△100	
総合計	5,217	3,933	△24.6%	4,094	△21.5%
全国<確定値> (百万t-CO <sub>2</sub> )	1,395	1,017	△27.1%	1,062	△23.9%

排出量の総合計が基準年度(平成25(2013)年度)と比べて24.6%削減

前年度(令和4(2022)年度)と比べて3.1%削減

排出量は、省エネの進展や再エネの拡大により、基準年度から減少傾向にある。排出量の60%を占める産業部門において削減が進んだことが主な要因であるが、家庭及び業務部門においても削減が進んでおり、各主体が着実に取組を進めた結果であると考えられる。

## (2) 部門別排出量

区分 (万t-CO <sub>2</sub> )	基準年度 H25年度 (2013)	<速報値>				全国の 構成割合	
		R5年度 (2023)	基準年度比 増減率	2030年度 目標削減率	構成 割合		
二酸化炭素	産業部門	3,202	2,422	△24.4%	△32.4%	60.0%	31.7%
	製造業	3,165	2,388	△24.6%	—	59.2%	—
	民生部門	759	490	△35.4%	—	12.2%	29.1%
	家庭	386	234	△39.4%	△66.3%	5.8%	13.7%
	業務	373	256	△31.3%	△51.3%	6.3%	15.4%
	運輸部門	445	369	△17.1%	△34.8%	9.1%	17.7%
	自動車	387	321	△17.0%	—	8.0%	—
	エネルギー転換	456	486	6.5%	△46.1%	12.0%	7.4%
	工業プロセス	136	107	△21.3%	△32.6%	2.6%	3.6%
	廃棄物部門	99	55	△44.0%		1.4%	2.5%
計		5,097	3,929	△22.9%	△37.8%	97.4%	92.3%
メタン		41	33	△17.5%	△11.0%	0.8%	2.7%
一酸化二窒素		25	23	△6.8%	△16.8%	0.6%	1.5%
代替フロン類		54	48	△10.3%	△44.2%	1.2%	3.5%
合計		5,217	4,034	△22.7%	△37.6%	100.0%	100.0%

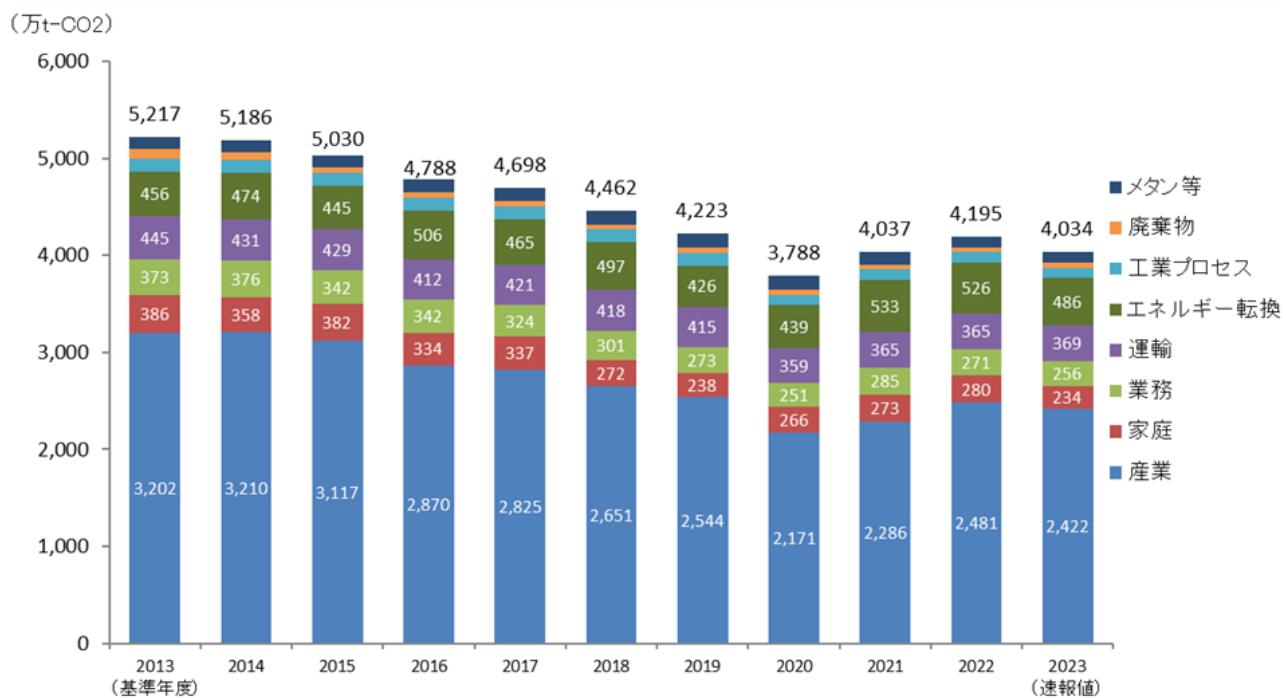
※令和5(2023)年度値は暫定値として公表されている都道府県別エネルギー消費統計等の数値を用いて算定した。

桁数処理の関係で合計・比率等の計算が合わない場合がある。

## 3 計画の方向性 I ~IVに掲げる主な指標の進捗状況

主な指標	基準年度 H25(2013)	現況 R6(2024)	目標年度 R12(2030)
方向性I 強みを活かした脱炭素社会の構築			
次世代自動車(EV, PHEV, FCV)の保有台数	1,944台	13,250台	36,000台
方向性II 経済成長と環境負荷低減の両立			
循環型産業・脱炭素関連の新技術・新製品の研究開発等への支援件数(累計)	34件	126件	162件
方向性III 再生可能エネルギーの普及拡大			
再生可能エネルギー導入率 (R5(2023)年度)	6.1%	24.6%	27.9%
方向性IV 県民総参加による取組の推進			
アースキーパーメンバーシップ会員数 (人・事業所)	10,881	15,726	19,000

## 参考1 温室効果ガス排出量の年度推移



## 参考2 主要4部門の二酸化炭素排出量の年度推移（平成25(2013)年度を100とする）

